



CCT2014が

2014年10月30日(木)～11月1日(土)に

神戸ポートピアホテルにて開催されます。

当院からは

臨床工学科 技士長 野口幸 技士が

10月30日(木)に

学術発表を致しますので、ご紹介します。

Complex Cardiovascular Therapeutics 2014

CCT2014 Go-medical

会期

2014年10月30日(木)・31日(金)・11月1日(土)

会場

神戸ポートピアホテル

Challenge and Innovation

CCT Website  <http://cct.gr.jp/>



Critical hand ischemia(CHI)による手背潰瘍に、EVTにて有効であった維持透析の1例
医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾ 循環器内科³⁾
野口 幸¹⁾ 重村真琴¹⁾ 浅野秀人¹⁾ 古岡伸夫²⁾ 森口泰孝²⁾ 福井寛人²⁾ 奥村啓之³⁾ 齊藤純久³⁾
高比康臣³⁾

【症例】60代の女性。主訴は右手背潰瘍。糖尿病性腎症で透析導入。2013年12月、右手背に潰瘍形成を認め造影を行った。造影上、Subclavian artery90% Brachial artery 75 % Radial artery 100% Ulnar artery 99%で、Ulnar、Brachial、Subclavian arteryにEVTを行った。治療経過は良好で、潰瘍は遠縮、痂皮形成に伴い痛みも消失した。しかしながら、2014年3月、同部位に痛みを伴う潰瘍と感染も合併し、EVT施行した。Radial・Ulnar arteryは100%、Subclavian arteryは75%の狭窄を認めUlnar artery、さらに今回はRadial arteryにもEVTを試み血行再建術に成功、Subclavian arteryはステントを留置し終了とした。治療後、疼痛は消失し感染巣も改善した。

【結語】CHIは稀な症例であり報告例も少ないが、繰り返しEVTを行う事で対応可能な症例もあると考えられた。